

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会記録

日 時 令和2年7月30日（木曜日）14時00分～14時26分
場 所 羽幌町議会議場
出席者 金木委員、磯野委員、平山委員、阿部委員、工藤委員、船本委員、
小寺委員、逢坂委員、舟見委員、村田委員長、森議長
駒井町長、今村副町長、敦賀総務課長、高橋商工観光課長、大平財務課長、
鈴木健康支援課長
事務局 豊島局長、嶋元係長

村田委員長（開会） 14:00～14:01

皆様、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を開催いたします。

まずいつもと同じなのですが、マイクは質問する方、答弁する方、赤いランプがついているのを確認の上、ご発言をお願いします。それとこれもいつもなのですか、質問・答弁は着席のままで結構ですのでよろしく願いいたします。

それではですね、今日は指定管理事業の継続支援事業について、担当課のほうから説明をいただきまして質疑に入っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

1 地方創生臨時交付金申請予定事業（指定管理事業継続支援事業）について

説明員 今村副町長、高橋商工観光課長

高橋商工観光課長 14:01～14:02

それでは指定管理事業継続支援事業につきまして、その内容等をご説明申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による経済活動の収縮に伴い、甚大な影響を受けている町内唯一の温泉宿泊施設事業を今後も継続して実施するため、施設の管理運営を行っている指定管理事業者に対し、今後の事業の継続に向けた支援を行うということで3,000万円の支援金を予定しています。

交付対象者につきましては、いきいき交流センターでありますサンセットプラザはぼろの指定管理事業者アンビックス1事業者であります。

支援金3,000万円の内訳ですが、事業費の前年度収支3月から8月、今年度につきましては見込みですが、前年度の収支の対比での約70%の3,000万円ということで金額を決定しております。

なお、この金額に関しましては8月の臨時議会において補正を提出する予定であります。

以上です。

村田委員長 説明が終わりました。では質疑を受け付けます。

－主な協議内容等（質疑）－ 14:02～14:26

磯野委員 前回の会議等でも皆様心配したとおり、サンセットプラザに関しては皆様大変関心を持って議論をしていたところなのですが、この3,000万円という金額について、この辺はアンビックスとの間ではこれで了解ということなののでしょうか。

高橋課長 お答えいたします。先日アンビックスとの話し合いをして参りました。その段階でこの3,000万円という額で、8月分までの見込み額ですが、それに対して事業継続に関しては確認をとっております。

磯野委員 まだまだ北海道では感染者がゼロにはならないし、特に関東関西地方では増えている段階なのですが、これ一応8月までの見込みですが、それ以降については町の考え方というのはどうなののでしょうか。それ以降もし同じような状態が続いたときに、これにプラス支援ということは町としては考えているのでしょうか。

高橋課長 お答えいたします。今後につきましては、状況を見ながらということで内容によって協議しながら進めていきたいと思っております。

磯野委員 今後協議するということは、それはアンビックスとも了解ということで理解していいのですか。

高橋課長 それに関しましては、向こう側からの了承というか、今後についての協議もこの間の話し合いの中でされているということで、それに対して今後の状況を見ながらということで進めていきたいと思っております。

村田委員長 ほかにありませんか。阿部委員。

阿部委員 何点か確認で質問させていただきますが、先ほどこの助成額3,000

0万円については、アンビックス側と協議をした中で了解を得ているということで、事業を継続していただけるということですが、これについて要は指定管理期間中まだまだこの先もあと5年、何年とありますが、その期間まではしっかり羽幌の中でやってくれるということによろしいですか。そこまでの話をされたのか、その辺をお聞きしたいと思います。

高橋課長 お答えいたします。今回の3,000万円に関しましては、あくまでもコロナ対策という部分での話し合いでアンビックス側と協議しております。

阿部委員 どうしてこういった話をしたのかといいますと、どうしても本当にダメージを受けたのはアンビックス側で、ダメージを受けたのは5月の1か月近く休業したときだと思うのですよね。本当ならそういった時期にしっかりと支援金を出せばよかったのですが、どうしてもいろいろと協議を詰めていく中で遅くなってしまったということで、できれば今後こういった協議の場になるのか分からないですが、コロナだけではなく、やはりこの先も継続してアンビックスさんのほうでしっかりと、羽幌町のほうでやっていただけるような協議も含めてやっていただければなと思いますが、その辺、今後どのように話し合いをされるのかお聞きしたいと思います。

高橋課長 お答えいたします。あくまで今回は事業継続に向けた話し合いということで進めておまして、今後につきましては、またその後の対応として今後を見据えた中で協議していきたいと思っています。

阿部委員 4,687万1,000円に対して70%ということですが、この70%にしたというのはどういった感じで70%にしたのかお聞きしたいと思います。

高橋課長 お答えいたします。これに関しましては、地方創生臨時交付金の関係で100%となると赤字補填という話になりますので100%ではなく、また、8月分に関しましては7月もそうなのですが、まだ見込みということで額が確定していないということもあり7割ということで設定しております。

阿部委員 どうしても赤字補填というのは難しいということなのでこの額になったのかなと思いますが、先ほど磯野委員のほうも8月以降についてということで今後協議するということですが、その辺についても例えば9月からどうしても減ってしまった場合に丸々100%は付けられないということで、そういった形でのみ、例えば支援をするとなった場合はそういった形になるということによろしいのでしょうか。

高橋課長 お答えいたします。あくまでも先ほどから申し上げておりますとおり、交付金を使ってということで考えておりますので、取りあえずはその交付金でいくと100%というのはちょっと難しいということで、これが7割になるのか8割になるのか6割になるのかというのは、今後の状況を見てということになると思います。

阿部委員 今回この事業を継続事業継続支援金という形での助成ということですが、当然会社としても経営状況が厳しくなっているのかなとも思うのですが。そういった部分、例えば入湯税のいくらか免除するだとか、そういった何か優遇措置とかそういう部分は考えてはいないのかどうなのか、その辺を最後お聞きしたいと思います。

高橋課長 お答えいたします。入湯税ということでは無理なのですが、管理費という部分での減免というか免除に関しては、今後の協議ということで。

村田委員長 ほかにありませんか。金木委員。

金木委員 出ている金額についてお聞きしたいと思うのですが、その前に契約上ですね、今回のコロナのような事態は当然念頭にはなかったわけですから、必要な話し合いだろうと思うのですが、契約上はこういった事態に対してはどういうふうにするということになっているのか。現在確か10年の指定管理契約で半分、ちょっと何年目なのかも正確に言ってほしいし、たしか中間5年あたりで見直しをするような規定があったかどうか、そんな記憶もちょっとあるのですが、その辺の契約上の説明をまずお願いしたいと思います。

村田委員長 暫時休憩いたします。

村田委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。高橋商工観光課長。

高橋課長 お答えいたします。指定管理に関しましては、10年間という期間を基本協定で結びまして、管理業務に関しましては、事業年度は1年ごとということで、毎年金額等に関しては協定を結んでおります。それで、今回指定管理側から基本協定の部分の指定の取消しという申出をいただきまして、それに関して今まで協議を重ねてきたということでもあります。

金木委員 指定の取消しということは、もしこのまま何も支援がなければこれで指定管理をもう打ち切りますよという意味ですか。もうちょっと詳しく正確に説明をお願いします。

高橋課長 お答えいたします。コロナの状況でアンビックス側本体の部分とか、会社側の関係もありまして、今後続けるということで会社の決定ではないですが、今後これ以上はということで早い段階、体力のあるうちということで、こういう状況なのでどうでしょうかという申出はありました。

金木委員 わかりました。ちまたではいろいろなうわさがあって、いつまでやってくれるのだとか、うわさを言うのもなんですが、8月いっぱい引き揚げるのではないとか、といううわさを直接耳にしましたが、今伺うと本当に際どのような状況であったのかなと思います。支援をすることは、私はやぶさかではないと思うのですが、この金額のはじき方、収支事業費として3月から8月までの半年間を見込んで、その下の当年期というのは3月から8月までの間の見込額ということなのでしょう。それとも当年期まるまる1年のことなのか。あとその後にある前年期というのは昨年ということでいいのですか。確かあれですね、ホテルの1年は1月から12月までだったのですが。ちょっと会計年度と合うのかどうかその辺の説明もお願いします。

高橋課長 お答えいたします。ホテルに関しましては10月から9月までが事業年度ですが、今回コロナの関係ということで今コロナの影響があった3月からそれ以降の8月までの見込みということで、当年期というのが今年度の3月から8月までの見込み。前年期が昨年の3月から8月までの実績ということで、収支の対比を出しております。

金木委員 その3月から8月まで、今年度は分かります。この状況ですから、かなり赤字になるのだなという三角マークは分かりますが、前年同期についての数字を出すのであれば、ただ金額だけを出されてもですね、まだ事業報告書みたいなものはできていないのかどうなのか。もうちょっと詳しく、前年度1,296万円ちょっと赤字になりそうですというその内訳をもうちょっと詳しく出していただかないと。ただ出されても、どの部門でどのような状況になって、このような前年度についても赤字になりそうなのか、なったのか、というところをもう少し丁寧な説明が必要ではないかと思いますが。その点はいかがでしょう。

村田委員長 今回の金木委員の質問なのですが、前年同期は赤字ではないプラスの1,296万円と書いて三角がついていないので、赤字ではないので、今の質問はちょっと……。まずそれでは、答弁があるのでしたら答弁をもらいます。高橋商工観光課長。

高橋課長 お答えいたします。あくまでもコロナのこの交付金を使うということで、期間が3月から見込が8月というところまでなので、その前年度の実績の数字との対比ということで、その部分だけ抜き出すと前年度は今委員長が言われたように黒字になっております。それから、今年に関しては3月から8月見込みということで、マイナスということでその差額として4,600万円という数字を出しております。

村田委員長 金木委員、今の説明で理解できましたか。

金木委員 前年度がマイナスで抜くということはこの計算でいいのですかね。3,300万円の見込みにさらにマイナスが増えるわけですね。

村田委員長 金木委員、休会して皆さん納得できるように説明をしてもらいたいなと思います。

村田委員長 休憩前に引き続き会議を戻します。

金木委員 分かりました。それで、金額も相当な金額の見込みになるだろうというのは想像していたのですが、アンビックスさんは道内でも十数か所か羽幌町と同じような自治体が抱える温泉施設を指定管理されていると思うのですが、そういったところでも同じような状況になっている

のか。それぞれの対応で、またちょっとばらつきがあるのかどうか、その辺の状況も調べてみたのかどうか。ほかはほかで、羽幌町だけの対応だったのか。いくつかあると思うのですよ。聞くところによるとアンビックスさんが関わっていたところも全部一時閉鎖したというふうにも聞いているのですが、事実かどうか分かりませんが、そういったところでも羽幌町と同じような事態になっているだろうと思うのですが、そのようなところとはどういった話し合いになっているのか調べたのか。その辺もちょっとお聞きしたいと思います。

今村副町長 お答えいたします。アンビックスさん何か所か指定管理されていて、やり方も当町のような指定管理のやり方をしているところだとか、直営でやっている施設だとか、様々あります。会社から聞いた話によりますと、当町と同じような指定管理でやっているところにつきましては、当町と同じく自治体のほうに支援をお願いしているという話を伺っております。ただ、その結果で各町村がどのような支援をするだとかというのは、ちょっと当町からはほかの町のことですのでお答えはできませんが、同じような形で支援の要請は行っているというふうに会社から聞いております。

金木委員 今回は全然予想していなかったようなコロナの時代であるわけですが、今後いろんな状況でコロナでないにしてもこのような状況でなかなかうまく営業されないという事態も起こり得るかと思うのです。このコロナも今年だけで終わるものなのかどうか分かりませんし、その都度話し合うというのがいいのか、それはやっぱり契約上をきちんとこういうときにはこういう対処をしますみたいなものを契約上また一筆交わすことが必要なのかどうか。その辺の今後のあり方というのですかね、その辺についての考えがあるのであればお願いしたいと思います。

今村副町長 お答えいたします。実際アンビックスさんとの話し合いに私も入ってお話をさせていただきました。金額的には会社のこともあるのであまり中身はあれなのですが、もうちょっと支援のほうはいただきましたかったようなのですが、会社としても今後のG o T oキャンペーンやどうみん割、当町が行う宿泊者対象のクーポン券の配布などの事業を行って、実際の赤字額ということではなく、事業効果等を勘案していただいて、この金額でなんとか事業継続が可能という形でお返事をもらっ

ている中で、今後G o T oキャンペーンやどうみん割の動向が見えてきて、今考えているような収益に結びつかないようなことがあると、追加支援というのもあり得るのかなという形で今お話をさせていただいている状況ですので、もう少し様子を見なければ分からないのですが、どちらにしても交付金につきましては以前から説明しているとおりの9月が最終申請という形ですので、その前にまず交付金で支援をする中身については、その部分は固めてしまわなければならないというふうに考えております。

村田委員長 ほかにありませんか。なければこれで特別委員会を閉会いたします。御苦労さまでした。